

『河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～』

JRRN 事務局／リバーフロント研究所 後藤 勝洋

JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）の活動の一環で、全国の市民団体や行政機関にご協力頂き、筑波大学白川（直）研究室「川と人」ゼミとの協働で『河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～』を作成・発行致しました（下記 URL で公開しています）。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/425.html>



A4判 94頁

河川モニタリング活動事例集 ～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～

◇構成

1. なぜモニタリングが必要か？
 2. 市民が取り組むモニタリング活動の現状
 3. モニタリング活動の実践事例
 - 3.1 河川改修・再生事業による影響・効果を把握する
 - 3.2 固有種の生息・生育環境を把握、保全する
 - 3.3 現状の河川環境を把握、保全する
 4. 市民による河川環境の評価の更なる推進に向けて
- 巻末資料
- アンケート質問票
 - アンケート調査にご協力頂いた団体
 - 本書で事例紹介したモニタリング活動団体
 - ヒアリング調査にご協力頂いた団体
 - 講演録『市民による河川環境調査の更なる推進に向けて何が必要か』
 - 監修者及び制作チームの紹介

本事例集は、全国の河川モニタリング活動を実施している市民団体を対象にアンケート・聞き取り調査を行い、モニタリング活動の現状や課題等を取りまとめたものです。約30の市民団体のモニタリング活動について、目的別（①河川改修事業等の影響把握、②固有種の生息・生育環境の把握・保全、③現状の河川環境の把握・保全）に区分し、モニタリングを始めたきっかけ、モニタリングの対象や方法、工夫や成果等を事例集として紹介しているのが特徴です。また、モニタリングの実態と一昨年に発行したPRAGMO日本語版（英国河川再生センター（RRC）による河川再生の順応的管理に向けたモニタリング手引きの日本語翻訳）との比較分析に基づき、モニタリング活動の更なる推進に向けた留意事項を整理しています。（PRAGMO日本語版は下記URLで公開しています）

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/60>

本事例集が、全国の知恵や教訓を共有することの一助となり、各地の河川環境モニタリング活動の更なる活性化に寄与すれば幸いです。

なお、本事例集は、（公財）河川財団の河川整備基金の助成を受けて作成されたものです。本事例集の作成に当たり、ご協力をいただいた団体の皆様に感謝を申し上げます。



市民による河川モニタリング活動

JRRNは、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に事務局の共同運営を行っています。